

EPSは長期の断熱性能に優れています

発泡スチロール協会では平成25年（2013年）に、会員に試験体の提供を募り、JIS A 9511規格の「1号品、2号品、3号品、4号品」に相当する合計53検体の試験体の製造直後から90日後までの熱伝導率（ λ ）の経時変化を公的試験機関で測定致しました。

3年が経過した平成28年（2016年）に3年間保管されていた試験体の熱伝導率を改めて公的機関で測定し、「3年間の経時変化」の実態を調査致しました。

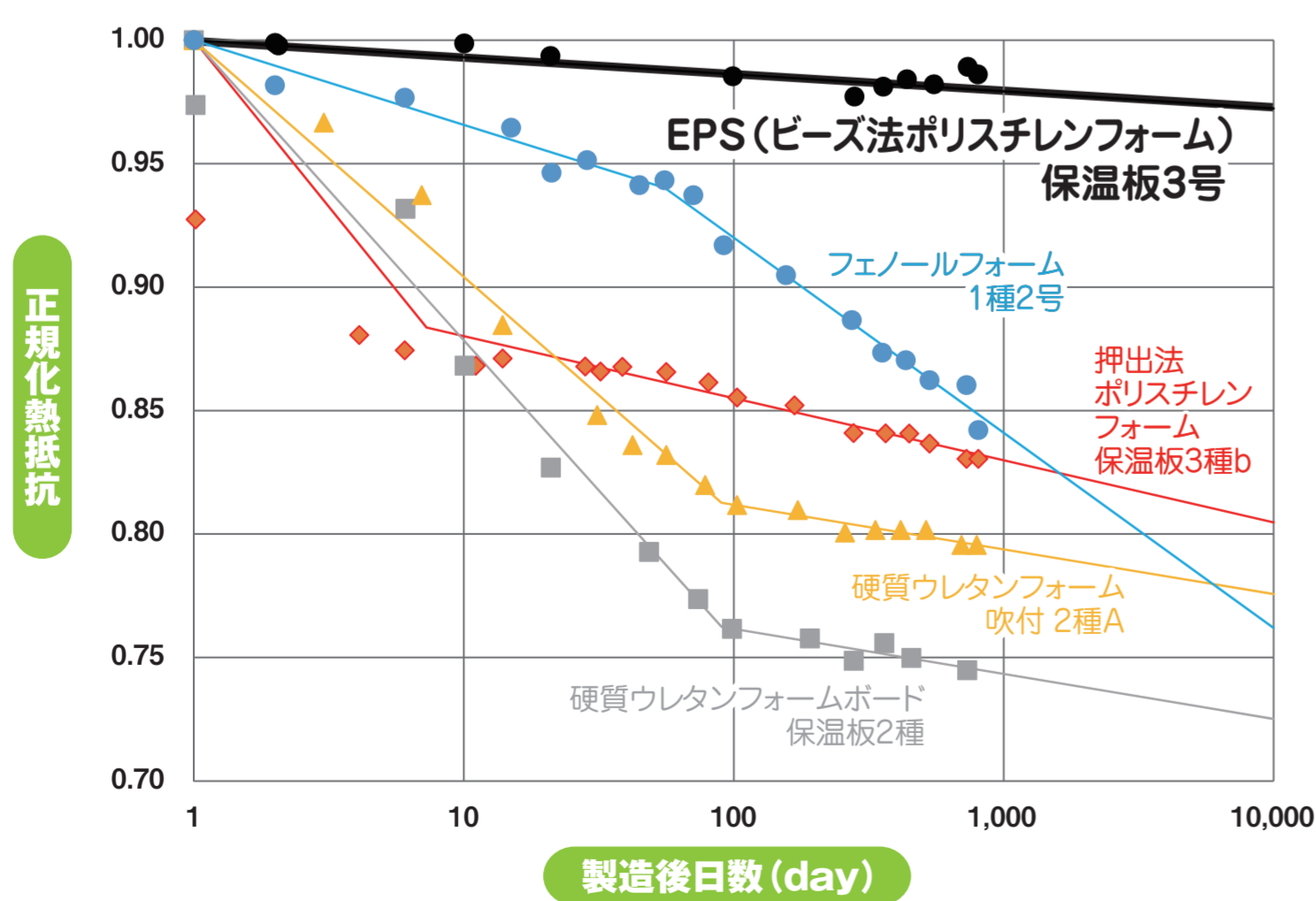
その結果、以下のグラフに示すように「**EPS断熱建材の断熱性能の経時変化は他の発泡プラスチック断熱材と比較して、極めて少ない**」事が実証されました。

“断熱性能の長期安定性”は快適な生活空間の確保・維持、住宅の長寿命化と価値の継続に欠かせない要因です。

長期の断熱性能の変化が極めて少ない事が実証された「EPS断熱建材」は、住宅の新築時点だけでなく、長く住み続けても安心出来る断熱材と言えます。

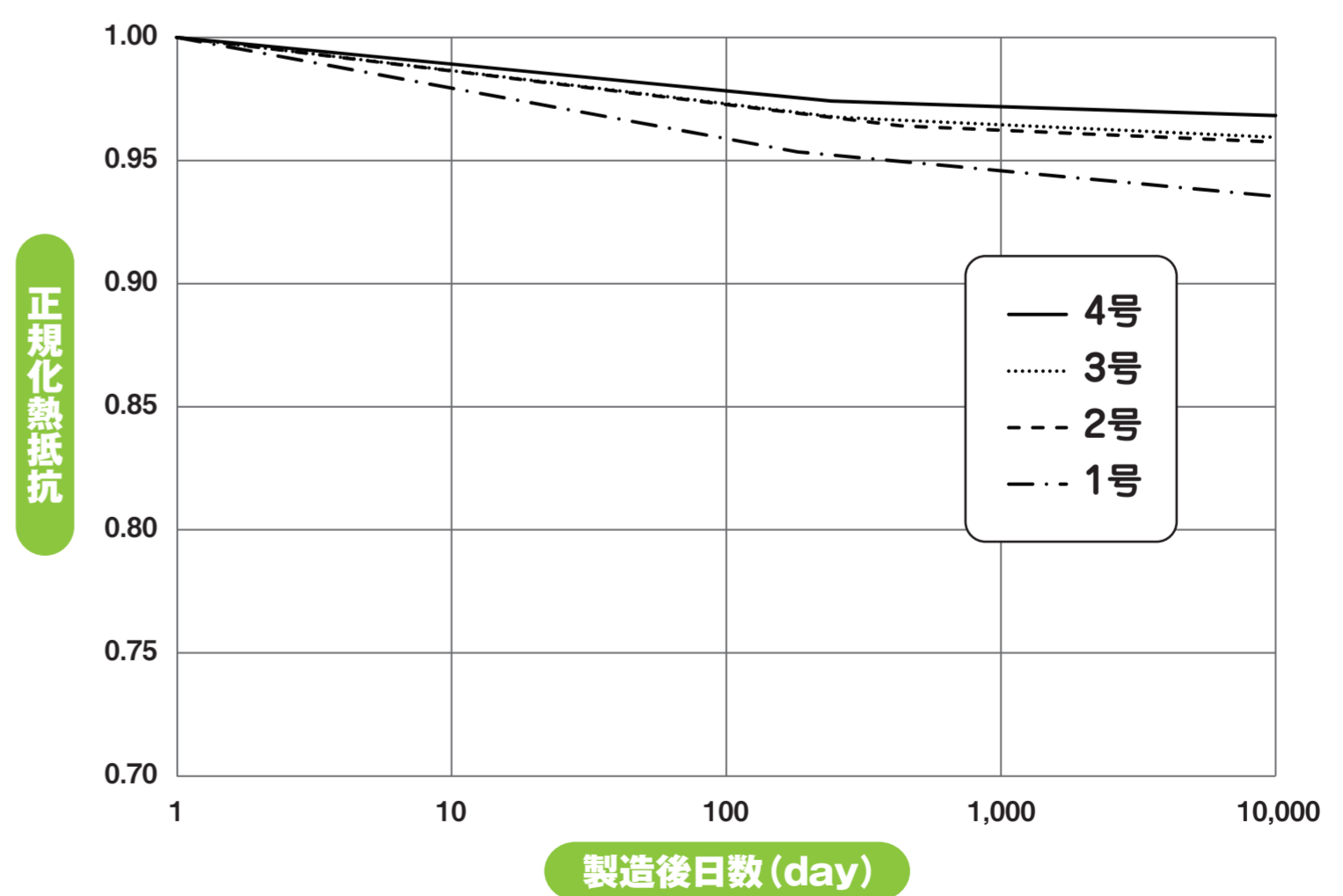
断熱性能の（長期）経時変化

発泡プラスチック断熱材の製造直後からの正規化熱抵抗の経時変化



出典：独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構
平成19年度「断熱材の長期断熱性能評価に関する標準化調査成果報告書」
平成20年3月より作成

EPS断熱材の製造直後からの正規化熱抵抗の経時変化



平成25年及び平成28年の測定値
推定自己消火性発現（製造約10日後）以降の変化